

# 日本庭園のエビネの植栽について

小川恒彦・井上尚子

2010年に造成した日本庭園奥のエビネ植栽区を再整備したので記録する。

日本庭園の奥は谷で、周辺に杉などが茂っているため、日当たりが悪い。2007年から土壌を開墾してはヤマアジサイを植栽してきたが、特に東側斜面の麓は日当たりが悪く、生育が悪かった。そこで2010年にヤマアジサイを一部撤去し、新たに林床の植物、エビネの植栽区を設けた（以後、エビネ園とする）。

2010年にエビネ園に植栽したのは、日本庭園内に散在していた株と、園職員から譲り受けた株、合わせて約100株である。

5年後、広島市佐伯区倉重在住の中岡智子氏から追加で約200株を寄贈され、エビネ園を拡張した（写真1）。



写真1 エビネ園の拡張の様子（2015年）

2016～2019年は、安芸エビネ研究会の河崎英夫氏による栽培指導と株の寄贈があり、エビネ園はさらに充実した。

しかし2020年以降は河崎氏のご都合によって栽培協力を得ることが難しくなり、株分けなどの作業が滞り、エビネの生育が目に見えて悪くなった。特に2022年は開花数が少なかったため、来シーズンに備えて栽培環境を改良する予定であった。

そんな折、2022年10月、山口県錦町在住のエビネ愛好家、土肥国顕氏のご遺族から故人のエビネコレクションを分譲したいとの申し出があ

り、これを受けてエビネ園を再整備することにした。

2022年11月、日本庭園の既存のエビネ園に隣接する区域のヤマアジサイを掘り上げて移植し、空いた場所に花壇に用いていた用土を客土、パーク堆肥を投入し、杉の根を除去した後、耕耘して、エビネの新しい植栽区域とした（写真2）。

土肥氏がエビネを栽培していたのは、山口県寂地峡のさらに奥の急斜面で、土壌は腐植に富み適湿であった。2022年11月、葉色よく健康に育っていたエビネ約600株を掘り上げ、新しく整備した区域に植栽した。



写真2 エビネ園の拡張の様子（2022年）

その結果、2022年11月、エビネ園は約950株の規模となった。エビネの植え付けの適期とは言えないが、細心の注意を払って植え付けた（写真3）。日本庭園の奥はイノシシの被害にあうことが度々あったので、念のため周辺はイノシシ除けの電気柵で囲った。品種名や花色が分からないまま植え付けているので、2023年5月の開花時期には花を見て分類、植え替える予定である。



写真3 2022年11月下旬のエビネ園。一番奥が2010年に整備したエリア、その手前が2015年に整備したエリア、一番手前が今回整備したエリア。